

# 校長室だより

6月号 平成28年6月30日発行  
校長 菅野武彦

## 「人間賛歌が響き渡る学校づくり」を目指して

【今年度のキーワード】

## 「建設的な和～みんなの向陽中学校～」

### ◇ 『人間賛歌が響き渡る向陽中学校』を創ります 二その2＝

〈“みんなの向陽中学校”を掲げて…〉 ～「私です！」がポイント～

きっかけは昨年度のキーワード「建設的な和」をどうするかでした。教職員の自己評価が芳しくなく継続を考えました。しかし、このまま継続するには“能がない”と思い、一計を案じました。その結果、“みんなの向陽中学校”が生まれたのです。その心は「生徒と教職員が保護者・地域と力を合わせ、向陽中学校をつくる。つまり、生徒一人一人に“自分がつくる”意識をもたせる。教職員一人一人が“自分がつくる”意識をもつという願いを込めたかった」ということです。私自身が最も意識して率先垂範しなければならないと考えています。

生徒には、朝礼などでつぎのように話しています。“みんなの向陽中学校“をつくるのは、「私です！」とためらうことなく言えるようにしようと。そして、この「私です！」には、324名の全校生徒が誰一人として欠けてはならないという強い意志を込めました。生徒一人一人が「私は周りの人たちに役立ちたい、役立っている」という“自己有用感”をもち、周りの人たちと関係づくりができるような向陽中学校にしたいと考えています。ご家庭でも折に触れて“みんなの向陽中学校”の意図することを話題にしていただけるとありがたいです。



運動会での3年生の一コマ  
学級の和と輪が自然と作られる

〈“自育力”の育成を目指して〉 ～「がんばれ！自分！」がポイント～

自育力を考える出発点は私自身でした。自分の中学生のころを振り返ると、何て“無礼な奴”で“きかん坊(人の言うことを聞かない)”だったことか。唯一、誇れることがあったとすれば、田舎育ちの野生児だったので、多少のことでは驚いたりへこたれたりすることがなかったことぐらいです。恥ずかしい限りです。ところが、私にも自分に向き合うことができ、成長を実感できる時代がありました。それはもう少し後のこと。文字通り、“歯を食いしばって我慢する”ことの連続でした。機会がありましたら、後日紹介したいと思います。

『自育力を育てる習慣づくり14か条』(次頁参照)を考える際、参考にしたことは私自身の人生経験と教員としてこれまで教えてきた生徒たちです。さらに、校長として生徒を見てきた経験

もありました。そして、先ほどの“歯を食いしばって我慢する”経験は、私が目指す人になるために欠かせないと考えたからです。そこで、今年度は「自らの行動を律し、“なりたい自分”に近づける力を身に付ける。そのために、“がんばれ！自分！”を合言葉に『自育力』を育てる」ことに着手しました。勿論、今の向陽中生にも身に付けてほしいというのが大きなねらいです。

では、どのように身に付け、どのように評価するのか。学校生活が大きくかわってくることは明らかです。このことについてはまたの機会に説明するとして、今回は

自育力の評価について説明します。向陽中では毎学期の通知表とともに「自己評価表」を保護者の皆さんに配付しています。この「自己評価表」を自育力の育成に合わせリニューアルしました。この「自己評価表」に基づき生徒が4段階または3段階で評価した後、保護者の皆さんのお手元に届くようにします。保護者の確認印がありますので、ご対応をよろしくお願いいたします。三者面談でも話題にしますが、ご家庭でも我が子を励ましていただけるとありがたいです。



フレッド ツップ スクールでの1年生の一コマ  
私が一番感心した「そば打ち体験」

①規則正しい生活は成功につながる習慣づくり	⑧自分の役割を楽しむ習慣づくり
②自分から声を出してあいさつをする習慣づくり	⑨人のために行動してみる習慣づくり
③“ありがとう”を毎日言う習慣づくり	⑩お互いさまの精神で助け合う習慣づくり
④感情をコントロールする習慣づくり	⑪ちょっとした工夫でやり方を変える習慣づくり
⑤くよくよせずに失敗から立ち直す習慣づくり	⑫活動の範囲を広げ、挑戦する習慣づくり
⑥我慢強く、ねばり強くくり返す習慣づくり	⑬人や書物、作品などから学ぶ習慣づくり
⑦小さな目標を達成する習慣づくり	⑭「指示待ち」→「自ら行動する」習慣づくり

### 〈“いじめのない向陽中学校”をつくる その2〉

向陽中学校が今年度、“いじめのない学校をつくる”ことを「指導の重点」に位置づけていることについては、前号でもお知らせしました。今回は向陽中学生徒会が作った「いじめ0%五ヶ条」の予定でしたが、先日実施したばかりの「学校生活アンケート」についてお知らせします。

6月13日(月)に今年度第1回「学校生活アンケート」(年3回実施予定)を行いました。ねらいは“いじめ”の把握です。集計の結果、自分が「いじめられた」「いじめをした」と書いた生徒は2名で、「いじめを見た」という生徒が数名いました。これら書かれた内容はすでに学校が把握済みで、生徒指導を終えているものでした。再度、解決済みであることを確認した内容もありました。ただ、私の経験からも、深刻ないじめは大人の目を盗んでやるもの、そして「いじめはいつでも起きるもの」という教職員の共通認識の下、日頃から生徒の様子や人間関係に気を付ける、気になったことは教員間で情報を交換し合い、共有することを職員会議で確認しました。“不断の努力”とはこのことを言うのでしょうか。

学校生活アンケートでは、生徒に「いじめ0%五ヶ条」の内、実践できたことを書かせています。次号にて。



5/6 前期生徒総会の一コマ